

必要経費の目安

ご旅行代金の他に別途下記の料金がかかります。
※詳細は、渡航手続き書類にてご案内申し上げます。

- ◆空港施設使用料 / 国際観光税 / 海外空港税・燃油特別付加運賃(56,000円) 上記は2026月7月現在の金額です。航空券の発券時点でレートは変動いたします。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。
- ◆渡航手続諸費用 (パスポートを新規取得、更新の方): パスポート新規申請代 (5年用 11,000円 / 10年用 16,000円 / 各自治体の戸籍謄本・住民票発行手数料や写真代別途要) このご旅行には2027年5月22日以降のパスポート有効期限が必要です。(＋2週間以上の有効期限が望ましい)
- ◆お一人部屋追加料金: 後日発表 (ホテルは基本2名一室です)
- ※お一人参加で相部屋をご希望の場合、最終的な部屋割りによってはやむを得ずお一人部屋追加料金を頂戴することがございます。予めご了承くださいませ。
- ◆任意の海外旅行保険
- ◆超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
- ◆個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用 (食事代、飲み物代・自由行動時の諸費用等)
- ◆ご自宅～発着空港までの交通費



ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」(募集型企画旅行契約)によります。この旅行は2026年7月1日現在を基準としています。

- 旅行契約の解除
参加者が最少催行人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。この場合は出発の23日前迄にお知らせします。
- ＜取消料＞
お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。
- ＜解除時期・取消料＞

契約の解除期日	取消料
旅行開始日から起算して遡って30日前以降	旅行費用の20%
旅行開始日前々日以降	旅行費用の50%
旅行開始後の解除、無連絡不参加	旅行費用の100%

ご旅行要項

- 旅行代金に含まれるもの
①企画手配料金および手配料金 ②交通費: 旅程に明示した航空運賃、旅程に明示した専用車料金 ③宿泊費: 旅程表に明示したホテル又は同等クラスのホテル(弊社基準)の基本宿泊料および税、サービス料(基本2名一室) ④食事代: 旅程表に明示 ⑤見学施設の入場料 ⑥講師謝礼・同行費用 ⑦添乗員1名同行費用

- 旅行代金に含まれないもの
①旅程表以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
②渡航手続諸費用: パスポート申請代 ③超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
④個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用・食事の時の飲み物代・自由行動時の諸費用等
⑤航空会社が課す 日本空港施設使用料・国際観光税・海外空港税・燃油特別付加運賃(56,000円)2026月7月現在※航空券の発券時点でレートは変動します。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。⑥お一人部屋料金: 後日発表

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第84号 JATA正会員

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで

 株式会社 富士国際旅行社

〒231-0062神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7
ヒューリックみなとみらい11F-4
総合旅行業務取扱管理者: 西須 輝理

TEL: 045-212-2101 FAX: 045-212-2201
fuji@fits-tyo.com 担当: 西須(さいす)・山田・川村・小島(おじま)

営業時間: 月～金曜日 / AM10:00～PM6:00
(休業日: 土日・祝日)
ホームページ: <http://www.fits-tyo.com/>

資料請求について

- ①本パンフレットは予告版です。詳細資料をご希望の方は、下記にご記入の上、富士国際旅行社までお送りください。正式パンフレット出来次第、お送りいたします。

株式会社 富士国際旅行社宛に郵送またはFAXでお送りください。

2026年11月22日(日) 発 日本AALAフィリピンツアー

パスポート ロ・マ・字表記		請求部数	詳細パンフレットを	部 請求します
お名前				
資料 送付先	〒	—	電話:	— —
			携帯電話:	— —
			FAX:	— —
所属	☐ AALA会員 ☐ 機関紙読者 ☐ 未会員 ↑チェックしてください		emailアドレス	

予告版

日本 AALA 企画 ASEAN を学ぶ旅

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

日本AALAフィリピンツアー

旅行期間

2026年 11月22日(日)～11月26日(木) 5日間

旅行代金

35万円以内

※お待たせして申し訳ございませんが、旅行代金について現地と最終調整しております。左記は目安の料金です。9月初旬に正式決定・発表いたします。また、旅行代金とは別に燃油付加運賃が別途かかります。

定 員

30名様
(最低実施人数20名様)

添 乗 員

成田空港より同行します

旅 の ポ イ ン ト

- 01 ASEAN議長国フィリピン本部に国際署名を届け、平和外交について考えます。
- 02 マニラ市街戦やバターン死の行進など日本の戦争加害の実態を学ぶ
- 03 スービック米海軍基地跡—基地返還後の活用と現在の課題を学ぶ
- 04 通訳・中村みずきさん同行、非核フィリピン連合事務局長コラソンさんと懇談

企 画

※写真は全てイメージです

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
(略称: 日本AALA) MAIL: info@japan-aala.org TEL: 03-6453-7297

〒105-0014
東京都港区芝
1-4-9 平和会館6階

旅程表			
日次	都 市	交通機関	行程・宿泊地・食事(朝・昼・夕)
① 11/22 (日)	成 田 ・ 関 空 発 マ ニ ラ 着 マ ニ ラ	航空機 専用車	●成田(午前7:30集合)、関空(午前8:00集合) 予定 空路、フィリピンの首都マニラへ 【所用:約4時間半 時差:日本より1 時間遅れ】 午後:マニラ市内見学 ◎イントラムロス ◎リサール公園 マ ニ ラ 泊 朝× 昼機 夕○
② 11/23 (月祝)	マ ニ ラ ケ ソ ン	専用車	午前あるいは午後: マニラ市 外務省訪問 (ASEAN事務局) ★「戦争に反対する国際署名」提出 午前あるいは午後: ケソン市 (非核都市) ◎バントヨグ・ン・ガ・バヤン博物館 夕食:現地の方と夕食交流会 マ ニ ラ 泊 朝○ 昼○ 夕○
③ 11/24 (火)	ホ テ ル 発 ス ー ビ ッ ク 着	専用車	早朝、陸路、スービックへ 到着後:スービック米海軍基地跡を見学 ◎基地撤去後の利用について見学と、問題解決に取り組む 現地の方との交流 ス ー ビ ッ ク 泊 朝○ 昼○ 夕○
④ 11/25 (水)	ホ テ ル 発 バ タ ー ン 着 バ タ ー ン 発 マ ニ ラ 着	専用車 専用車	陸路、バターンへ 到着後:バターン周辺見学 ◎バターン死の行進モニュメント ◎バランガにて日本軍の加害について学ぶ 陸路、マニラへ 到着後、ホテルへ 夕食:感想交流会 マ ニ ラ 泊 朝○ 昼○ 夕○
⑤ 11/26 (木)	ホ テ ル 発 マ ニ ラ 空 港 着 成 田 ・ 関 空 着	航空機	午前:◎NGO団体と交流し、貧困問題について学ぶ マニラ空港へ移動 【所用:約3時間半 時差:日本の方が1 時間早い】 ●空路、日本へ(関空19:15頃、成田20:30頃着) 朝○ 昼○ 夕機
●注意 ※上記は2026年8月現在暫定の行程表です。現在日本AALA及び現地と調整中のため、変更になる可能性がございます。9月初旬に決定次第、お知らせします。 ●利用航空会社 : フィリピン航空 ●宿泊予定ホテル: マニラ＝マニラホテルあるいはベイリーフ・イントラムロス・ホテルまたはケソンシティ／スービック＝セントラルパークリーフリゾート ●旅程表のマーク:＝朝食、昼＝昼食、夕＝夕食、○＝食事つき、×＝自由食、機＝機内食			

フィリピン基本情報

【正式国名】フィリピン共和国【人口】約1億336250万人
【言葉】タガログ語【時差】日本より1時間遅れ
【通貨】フィリピン・ペソ
【食べ物】歴史的に様々な国の影響を受けているフィリピンでは多国籍料理が楽しめます。主食は米で、味付けにはココナッツや魚醤がよく使われます。南国ならではのフルーツも魅力的です。
【気候】フィリピンの気候は熱帯性気候。年間を通じて暖かく、年平均気温は26～27℃。6～11月が雨期、12～5月が乾期に分かれています。

現地の気温(11月)	都市	最低気温	最高気温
	マニラ	23℃	31℃
	東京	5℃	22℃



ASEAN について

Association of Southeast Asian Nations—東南アジア諸国連合



ASEAN(東南アジア諸国連合)は、東南アジア11か国で構成される地域協力機構です。のちにASEANとなる国々は、唯一独立を守ったタイを除いて、20世紀に入っても英国、フランス、オランダなどの植民地支配を受けていました。第二次世界大戦中は日本の軍政下に置かれ、独立を果たしたのは戦後のことです。1960年代に入り、ベトナム戦争を契機にこれらの国々の間で地域協力の動きが活発化し、1967年の「バンコク宣言」によってASEANが設立されました。原加盟国はタイ、インドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシアの5か国です。1984年にブルネイが加盟し、1997年にラオス、ミャンマー、1999年にカンボジアが加盟しました。さらに2025年には東ティモールが正式加盟し、現在は11か国で構成されています。 ASEANは約7億人の人口を擁する地域協力機構で、過去10年間に高い経済成長を遂げてきました。2030年にはASEAN全体のGDPが日本を上回ると予測されており、インドネシアは現在、経済協力開発機構(OECD)への加盟を目指しています。ASEANは今後、世界の「開かれた成長センター」として発展が期待される一方、植民地支配や戦争の歴史を乗り越え、「対話と協力」を重視する地域としても世界から注目されています。

マニラ最古の城郭都市 イントラムロス

リサール公園の北側にある16世紀のスペイン統治時代に造られた旧城塞都市です。当時は政治・軍事・宗教の中心地として機能しました。イントラムロスはスペイン語で“壁の内側”

を意味します。第二次世界大戦で建物の大部分が破壊されましたが、1980年代に町が復旧されました。現在世界遺産にも登録されており、イントラムロスに存在するサン・アグスティン教会は第二次世界大戦を経て、唯一現存する建物です。



▼サンチャゴ要塞

米軍スービック元海軍基地跡

マニラから北西へ車で2時間半。かつて米海軍の世界最大規模の施設といわれた基地がありました。15,000haの陸地を持ち、山間部が多くを占めています。山々は空からの射撃訓練場にも使用されていました。

1991年のフィリピン上院決議に基づき、フィリピンに返還後、「経済特区」に指定。複合リゾートが建設され、基地に頼らない経済発展が実現しています。一方で、長く米軍管理下にあった湾周辺は、基地返還後も残留化学物質や重金属類、石綿、PCBなどに起因する深刻な環境汚染被害が起こり、住民は苦しめられました。また、民間利用されている港に米海軍のミサイル駆逐艦や輸送艦などが訓練や補給のため頻繁に寄港しており、返還されたにもかかわらず、訓練や抑止力を理由に基地の跡地が再び使用されていることに、地元住民は反発を強めています。

バターン「死の行進」

1942年、アメリカ軍の主防衛線はバターン半島の付け根近くにあり、日本陸軍が攻撃を続けていました。1月下旬にアメリカ軍防衛線は半島の中央部分まで後退。サマット山麓のカポット台がバターン戦の最激戦地となりました。同年4月3日からアメリカ、フィリピン(米比)軍と日本軍の総力戦が行われ、4月9日、サマット山の陥落により米比軍は降伏。日本軍はバターン半島を占領した後、捕虜となった米比軍兵士約7万6000人を捕虜収容所への移送のため最長100数キロ歩かせました。道中、マラリアなどの病気や、日本軍の監視兵による虐待、殺害などにより、多くの死者を出したことから、「死の行進」と呼ばれています。死者数は7000人とも、1万人とも言われ、収容所での死者も合わせると約3万人ともされています。

この「死の行進」は日本軍の残虐性を伝える事件として知られており、フィリピンでは、バターンが占領された4月9日を、戦闘や死の行進の犠牲者を悼む日として祝日としています。



▲バターン死の行進のモニュメント